

議会 だより



小豆島町

No.19

平成23年2月1日 発行



寒さなんて、へっちゃら！

はだかマラソンで、体を鍛える安田幼稚園の園児たち

● 審議議案	
一般会計補正予算など	2
● 一般質問	
9名の議員が質問	4
● 住民の声・町の力	10

新春のごあいさつ

小豆島町議会議長 秋 長 正 幸



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃から議会に対しまして温かいご理解とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

今年も引き続き「町民目線に立った議会の運営」を基本に、皆様の期待に応え、積極的に議会活動を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

副議長 森口 久士
議員 柴田 初子
議員 新名 教男
議員 渡辺 慧正
議員 中江 正

議員 谷 藤本
議員 安井
議員 村上
議員 中村
男 康 傳夫
之 信之
美 久美
利 勝利

議員 大川 新也
議員 森 崇
議員 植松 勝太郎
議員 鍋谷 真由美
議員 浜口 勇

11月25日 第2回臨時会

第2回臨時会は11月25日、1日の会期で開催され、町職員の給与条例の一部改正など、2件の議案が提出され、いずれも原案通り可決しました。

条例の一部改正

○小豆島町職員の給与に関する条例の一部改正

国の人事院・県の人事委員会勧告を受けた、町職員給与引き下げが主な内容です。

○小豆島町交通傷害保険条例を廃止する条例について

民間の各種保険が充実する中、町交通傷害保険の役割が小さくなったことに加え、町が契約している保険会社から次期契約の辞退申出があり、制度の継続が困難になったため条例を廃止するものです。

12月15日 第4回定例会

第4回定例会は12月15日、1日の会期で開催され、一般会計補正予算など、18件の議案が提出され、いずれも原案通り可決しました。また、9月に開催された第3回定例会で、決算特別委員会に付託した「平成21年度決算認定」については、賛成多数により認定しました。

平成21年度 決算認定意見

総括意見

未収金対策については、各課の取り組みおよび収納対策室を中心とした連絡会の開催により、その成果が表れてきているが、税および行政サービスへの負担に対する不公平感行政の大きな障害となるものである。ゆえに、今後ともより一層の研究と取り組みを進められたい。

補正予算

一般会計（第5号）

補正予算額は6,885万6千円の増で、補正後の予算総額は81億

1,601万3千円となります。主なものは次の通りです。

○衛生費
・子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業委託 294万4千円

・国庫補助制度を活用し、子宮頸がん、小児用肺炎球菌ワクチン等の接種費用の助成を行うものです。

土木費

道路舗装修繕工事

1,000万円
道路舗装修繕にかかる助成制度が新たに設けられたことに伴うものです。



池田港に設置された応援看板

○教育費
・全国大会出場補助金 48万4千円
池田中学校陸上部女子駅伝チームが全国大会に出場することに伴うものです。
・全国大会出場補助金 9万円
・消耗品費（立て看板、垂れ幕等の製作費用） 30万円
小豆島高校陸上部女子駅伝チームが全国大会に出場することに伴うものです。

このほか次の特別会計の補正予算が提案され、いずれも原案通り可決されました。

・国民健康保険特別会計
1,247万4千円

・介護保険事業特別会計
196万円

・介護予防支援事業特別会計
101万3千円

指定管理者の指定

左記6施設の指定管理者の指定を行うことが議決されました。指定期間は平成23年4月1日から5年間で、

- ・小豆島産業会館
- ・小豆島町うちのみ漁師村
- ・小豆島オリーブ公園
- ・サン・オリーブ
- ・小豆島オートビレッジYOSHIDA
- ・小豆島ふるさと村



瀬戸・高松広域定住自立圏の形成に関する協定の變更について

現在の協定に新たな事業を追加し、高松市と小豆島町の役割を定めたものです。

追加した事項

- ①救急医療体制の確保
高松市が整備した救急艇に関し、その活用方法についての項目を追加



救急艇「せとのあかり」

- ②環境学習の推進
- ③環境負荷の少ない自動車普及促進
- ④地域密着型トップスポートチームの試合観戦機会等の提供

辺地総合整備計画の變更

- ①二生辺地総合整備計画の策定

二面・室生地区の一部で地上デジタル放送を良好に受信で

きないことがわかり、新たにテレビの共聴施設を整備しようとするもの。

- ③三都地区と橘地区における辺地総合整備計画の變更

テレビ共聴施設の整備のため

草壁辺地総合整備計画の變更

片城地区で整備を行っている防火水槽の事業費が増額となったため

過疎地域自立促進計画の策定

延長されることとなった過疎地域自立促進特別措置法に基づき、新たに過疎地域自立促進計画を策定するものです。

- ①旧法からの主な変更点
適用期限の延長（平成28年3月31日まで）
- ②過疎地域計画策定義務の廃止（ただし計画に基づく事業は財政上の特別措置が受けられる）
- ③ソフト事業も過疎対策事業債の対象に

議員発議

議会活性化特別委員会の設置

議会の果たす役割が大きくなってきた中、これまで以上に議会の活性化に取り組み、住民に開かれた議員活動の方策を調査検討するものです。

- 委員長 新名 教男
副委員長 安井 信之
委員 中村 勝利
村 上 久美
森 初子
柴田 新也
大川 康男
谷 〃



住民目線の議論を

内海ダム特別委員会

の設置
ダム事業が住民の正しい理解のもとに、地域にとって不可欠な社会資本としての完成を期するために、

- 委員長 森口 久士
副委員長 中村 勝利
委員 鍋谷真由美
浜口 勇
村 上 久美
安井 信之
新名 教男
柴田 初子
谷 〃

また、ダムおよびダム周辺が地域住民の憩いの場となるとともに、地域資源として有効に活用できるような方策を検討するものです。

- 委員長 植松勝太郎
副委員長 森 崇
委員 中江 正
渡辺 慧
藤本 傳夫
大川 新也
谷 康男
〃

庁舎問題特別委員会の設置

庁舎については、前の委員会において、整備に向けての方向性が確認されたところですが、この問題については、継続して調査、検討するものです。

人権擁護委員に井上喜代文氏を選任

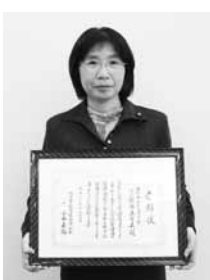


井上喜代文氏 (池田)

- 退任 日向 育子氏 (池田)
新任 井上喜代文氏 (池田)
再任 熊坂 泰忠氏 (福田)

四国地区町村議長会表彰

10月14日の四国地区町村議長会において中村議員、鍋谷議員が自治功労者表彰を受賞されました。



鍋谷議員



中村議員

一般質問

12月議会的一般質問において

9名の議員が質問に立ちました。

学校統合問題について

町「島は一つの視点で解決を」



安井 信之 議員

質問 土庄中学校への入学の可能性、これからの取り組みは。

答弁 中学は切磋琢磨をするところだ。

小豆島町の中学校に通う事が大原則であることは間違いないが、現実的な対応をどうするかということと思う。すべての課題を解決するには島は一つの視点で考えるしかないの

教育長 池田地区の説明会では、土庄中学校へ就学できる様にと

う要望があった。土庄中学校への就学は、統合とは切り離して区域外就学ということで希望者に対応する。

区域外就学は希望であるので、区域は考えていない。現状では蒲生・中山地区の区域外就学が出た場合、対応していくと考える。

鳥獣被害対策の

取り組みについて

町「現行制度の充実に努める」

質問 免許取得後の補助も必要では。



イノシシのワナ設置

答弁 町としては、当面狩猟免許の取得、イノシシ、猿の捕獲に

対する金銭面の助成、ワナの資材補給、工具の貸与、講習会の開催など、現行の支援制度の充実に努めたい。

免許取得後の補助は、土庄の一部の地区で免許更新に係る経費の半額程度を地域で負担する自治会がある。自治連絡協議会等で協議をしていきたい。

瀬戸内国際芸術祭が終わったの感想と

今後の取り組みについて

町「島の魅力が人々を引きつけることを立証できた。さらに島の情報を発信していきたい」



浜口 勇 議員

質問 瀬戸内東部7島で開催された瀬戸内国際芸術祭には目標の3倍を超える93万人が訪れた。感想と、今後、芸術を生かして、島の活性化にどうつなげるのか。

答弁 今回の芸術祭で瀬戸内海が世界に発信できる魅力ある地域であり、島々をむすぶ海上交通の便が整えば、島々に人々が集うこと

を名実ともに立証できた。背景には瀬戸内海の美しい自然と島々の歴史と文化、そして現



多くの人が訪れた「小豆島の家」(中山)

代芸術をめぐる旅と一体となった結果だと考えている。3年後に再び開催される国際芸術

祭に向け、島の魅力を発信したい。島の宝物である100を超える石彫作品、ひしおの郷、棚田、国の重要文化財指

定の岩谷石切丁場跡、島八十八ヶ所霊場など地域の宝物がたくさんあり、その魅力を高めて次の代へ伝えることが責任だと思う。皆様の理解と協力、専門家の助言を得て島の活性化に向けた施策を着実に実行したい。

三都半島一帯を若手芸術家の作品づくりの場とし、地域振興と再生に生かし、芸術家村での作品の1点は島に残すことになっている。



日本の活断層（小豆島にはない）

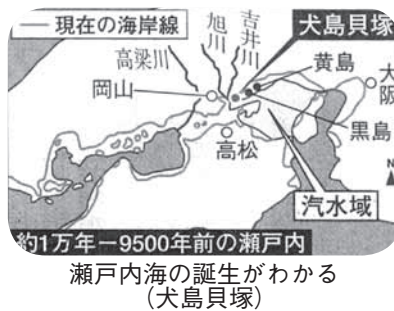
質問 11月22日朝日新聞香川版は驚く記事が書かれていた。特に「島が沈む」という見出しは私たちが島の活性化を考えないかのような。反対派はダム底の断層（約1センチ）が危険だと不安を上げたが200万年前のもので「活断層」は小豆島にはない。景観を見てもダム建設は正当な要求だ。9月13



森 崇 議員

新内海ダムの正当性とマスコミ報道について
町「ダムの正当性は今後も説明を続ける」

日付の山陽新聞で犬島貝塚でハイガイ（貝）の発見が記載されていた。「淡水・汽水・海水」が一遺跡にあり瀬戸内海の誕生がわかる。



また49・51災害の経験は戦争に匹敵する。風化させないために大衆参加の冊子を検討すべきだ。

答弁 ダムの正当性は数多くの説明会や事業説明会、公聴会など公開の場とともに県議会・町議会でも説明した。町民決起集会も多くの

参加で早期完成が決議された。ダムニュースも随時発行する。災害の経験は提案のようにしたいと思う。

土砂災害防止法の
矛盾について
町「危険個所の早期調査や法改正も県に要望する」

質問 同類の法律であるオーストラリア森林法は「ハード含む」だが、この法律は「ソフト法」のみである。古江の星屑の村の下に住む人は法律通りまさに早めの避難をしている。法律は「人のためにある」地方の時代というなら改正を要求すべきだ。

答弁 全国的にも危険個所が増え調査もしている。ハード事業の期待は当然である。町もレッドゾーンなど早期の調査実施や法改正も県に要望する。

地域を元気にする住宅リフォーム助成制度を
町「前向きに検討したい」



村上 久美 議員

質問 住宅リフォーム助成制度は、増改築やリフォームの際、一部を補助する制度で、潜在的な住民のリフォーム需要をすくいあげ、地元の工務店や一人親方等雇用や地域の新たな仕事起こしになる。国の補正予算にあげら



リフォーム助成で雇用と仕事の拡大を

れた住宅耐震化緊急支援事業を活用し、それに上乗せした制度として実施を。

答弁 平成23年度から耐震診断および耐震リフォームの補助制度の創設で市町へも協調補助の要請があり、わが町としても前向きに検討したい。

福田地区の空き施設を
高齢者の福祉サービスに
町「次期介護事業計画の中で検討する」

質問 内海本町まで福祉サービスを受けている福田地区の高齢者は、地元で安心して福祉サービスを受けたいとの願いがある。空き施設を高齢者の福祉サービスとして活用を。

答弁 平成23年度に次期介護保険事業計画作成の中でデイサービスを設けるかどうかについては結論を得たい。

安心して出産・保育しやすい
環境整備の充実を
町「基金活用を検討する。妊婦健診助成は継続する」

質問 国の補正予算に計上された妊婦健診関係、子育て安心こども基金関係の事業を活用して、出産、保育サービスの環境整備の拡充、児童虐待防止の推進の取り組みを。来年度も妊婦健診の14回無料継続を。

答弁 これまでにもおむつかえ設備や授乳スペース等の整備、保育所への空気清浄器設置等に活用。今回の基金増額の活用は検討したい。妊婦健診は引き続き実施する。

改良住宅の不正入居などの改善を

町「実態は調査中。法律に基づき適切に対処したい」



鍋谷真由美 議員

質問 問題のある改良住宅の実態を明らかにして改善すべきでは。

また、悪質な家賃滞納者は明け渡し請求も必要ではないか。

答弁 実態は、現在調査中。誠意の見られない方は法律に基づいて適切に対処したい。

消費生活相談員の設置を

町「設置は困難」

質問 滋賀県野洲市の、住民に寄り添い生活再建を行う多重債務相談の取り組みに学び、「市民生活に光を注ぐ交付

金」を活用して、消費生活相談員を置いては。

答弁 3年間の時限措置であり、相談員を直接配置することは困難。

内海ダム再開発について

町「暴挙とは思えない。施工も適切に行っている」

質問 反対住民の声を聞かず、始めた強制収用地での工事は暴挙で許せない。また、土砂が積み上げられ、災害を引き起こす危険が指摘されているが、幼稚園児らのメモリアルストーンの入体験は問題との声があるが。

答弁 法が規定する手続の上で行われ、暴挙とは思わない。土砂場

の施工は技術上の基準にのっとり、適切に行っている。メモリアルストーンは好評であったと聞いている。

日本の農業をつぶすTPP(環太平洋連携協定)に反対を

町「反対の立場に立っている」

質問 TPPに参加すれば、唯一自給できるコメも輸入品に置き換わり、農業が壊滅的な打撃を受け、広範な業種で雇用が失われ、地域経済が崩壊するが、見解は。

答弁 全国町村会の反対決議採択に加わり、その立場は既に明確である。



日本の農業の未来は？

オフの紅雲亭行きバス確保について

町「路線バス運行の維持継続が最重要課題」



中江 正 議員

質問 日本全体の路線バスは成り立たなくなり、香川県でも25のバス会社のうち、20のコミュニティバスが走っている。

小豆島の観光である名勝寒霞溪への公共のアクセスに、紅雲亭線はオフもコミュニティバスを走らせるべきだ。

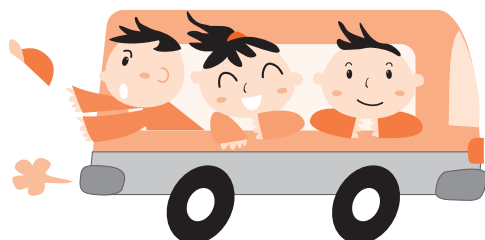
答弁 仮にオフシーズにコミュニティバスを運行しても、これまでの運行状況や試験運転の結果、採算性は極めて低い。

路線バスは継続運行してこそ価値を発揮できるもので、極端な不採算路線を継続運行は

コミュニティバスであっても困難である。今はオリーブバスによる路線バス運行をいかにして維持継続するのが最重要課題である。



観光小豆島に欠かせない(紅雲亭線)



坂手港の復権について

町「新たな寄港を働きかけていきたい」



谷 康男 議員

質問 わが町には4箇所の港があり、その中でも坂手港は水深、港湾施設において他の港に引けをとらない良港であると思う。

小豆島沖を航行する阪神航路は全部で6航路があるが、この中から1航路でも坂手に寄港できないか。

また、町長の言われる瀬戸内海の復権というテーマの中に坂手港の復権も入っているのか。

答弁 かつての坂手港は小豆島の表玄関として大いに賑わいを見せていたが、残念ながら今はその活力が失われ

ている。

私も小豆島随一の良港である坂手港に、より多くの船が寄港して、かつての賑わいを取り戻したいと考えている。

今後とも関西汽船を始め小豆島沖を航行している航路事業者に対し、坂手港への新たな



坂手港に寄港する「さんふらわあ」

寄港を働きかけていきたいと考えている。

来年は別府航路就航百周年を迎え、現在、航路事業者により記念イベントを企画中と伺っているの、詳細が



坂手港にかつての賑わいを

まとまり次第、関係自治体とも連携して記念イベントを盛り上げていきたい。



航路図

廃家電の不法投棄を防止する対策は

町「わかりやすい周知に努めたい」



柴田 初子 議員

質問 不法投棄は、水質汚濁や土壌汚染などを引き起こし、原状回復には莫大な費用がかかる。

来年の地上デジタル放送へ完全移行となるテレビを含む特定家電4品目の不法投棄を防止するために、リサイクルの方法をわかりやすく周知する方法があるのでは。

答弁 家電の処分費を節約するために、山間部や沿岸部に不法投棄されることが懸念される。

過去に多量の家電が不法投棄されたために、平成21年度に実態調査

を行った結果、町内64か所に不法投棄現場があり、そのうち22か所で特定家電4品目の不法投棄が確認されている。そのほとんどが、

交通量の少ない人気のない山間部なので、罰則を書いた啓発用の看板を設置しているが、防止をする決定的な対策にはなっていない。

昨年広報誌等で、処理方法を掲載したが、まだまだ浸透していない。提案があった、特定家電の廃棄方法について、イラストを使っただけでもわかりやすい記事で、できるだけ早い時期に、広報誌に掲載するなど、住民の皆様にご理解いただくよう努めたい。



リサイクルの意識を高め、不法投棄をなくそう



山中に捨てられた廃家電

「町づくり」の根本を「人づくり」と考える施策を
町「教育行政を大胆に見直していききたい」



新名 教男 議員

質問 わが町には、素朴で勤勉な住民と誇り高い文化と伝統が息づいている。

町づくりの根本は、人づくりだと考えるが①住民自身の良さを再確認させ動き出そうとする意欲づくりの施策②潜在的に優れた社会教育と学校教育の一元化による町おこしを。

答弁 最近、人づくりで島を元気にすることが一番だと考えている。潜在的に優れた社会教育と学校教育の一元化による町おこしという2つのご提案に全く賛成です。過疎化が進む中で、学校がすべて

のことを担うことは非常に難しくなっている。社会教育の活動拠点である公民館が中心であることは、間違いない。生涯学習の中に学校教育が位置付けられるという理解で教育行政を大胆に見直していきたいと思う。



51回を迎えた歴史ある「小豆島駅伝」

香川大学とのコラボレーションの取り組みとは
町「大学とのコラボを通して地域活性化を目指す」

質問 小豆島と香川大学のコラボレーション（共同作業）による取り組みがあると聞いていますが、こういったものか。

答弁 小豆島は、離島で少子高齢化と日本の国が抱える様々な問題を先取りしている地域である。香川大学とのコラボを通して地域活性化を目指す。



視察研修報告

総務建設常任委員会は平成22年11月8日～10日にかけて愛知県春日井市と滋賀県野洲市で、教育民生常任委員会は平成22年11月29日～12月1日にかけて島根県海士町と鳥取県境港市で視察研修を行いました。

総務建設常任委員会

愛知県春日井市
「農産物のブランド化について」

市を象徴する新しい特産品としてサボテンに目をつけ、平成18年から市と市民、商工業者らと協同でプロジェクトチームを立ち上げ様々な取り組みを行っている。

（具体的な取り組み）

- ・学校給食にサボテンを取り入れ、おかずとして使い認知度を上げていく。
- ・学校の体験授業にも取り入れられ、小さい時からサボテンに慣れ親しむ環境を作っている。

（研修を終えて）

春日井市の取り組みから当町のオリーブを顧みて
・地域の人や子どもたちにも本場にオリーブオイルが十分に理解され使われているのか。

- ・島内にオイルを使った店がどのくらいあるのだろうか。
- ・産学官での十分な取り組みがなされたか。
- ・今後はどうか。

- ・生産者と加工業者（販売を含む）が今後どのような取り組みを必要とするか。

十分な話し合いと行動がなければ100年の歴史が無になる可能性もあると感じた。

滋賀県野洲市
「多重債務相談窓口について」

野洲市はまちづくりの基本理念を「人権と環境を土台に、生きる意味が実感できる社会づくり」とし、安全・安心な街づくりを目指して消費生活相談にも力を入れている。

（具体的な取り組み）

- ・市民生活相談室を設置し、相談がたらいまわしにならないよう「ワンストップサービス」を実施。
- ・多額の借金に困っている人の情報をキャッチすれば、他の課題とも連携を取る体制を構築。

「野洲市多重債務生活再建マニュアル」を作成し、生活再建に必要な基礎知識を



サボテン農園を視察（春日井市）

学べるような研修を実施。
・債務整理が無事終了するまで、各関係機関と連絡を取り合い、状況を確認。



多重債務相談窓口について（野洲市）

「住民との協働について」
住民発意により、まちづくり白書を策定し、駅前への放置自転車対策においては半年で放置自転車数をなくすといった成果をあげた。平成19年には野洲市まちづくり条例を制定している。

「研修を終えて」
・消費生活相談を広くとらえ、市役所各部署が連携し、住民に寄り添い生活再建を行っている野洲市の取り組みは本当に素晴らしいと感じると同時に、わが町との現状のギャップも感

じた。

・住民との協働についても、検討委員会をつくり、幅広い多くの市民の意見を積み上げて「まちづくり基本条例」を作り上げていることなど、わが町との大きな違いを感じた。
・自治会と行政はお互いが自立した立場をとりつつ、対等なパートナーとして協力する関係であり、さらに市民活動団体とも連携することで、地域全体が活性化している実践例などが町でも参考にすべきたと思った。

教育民生常任委員会

島根県海士町
「島前高校魅力化プロジェクトについて」

海士町にある島根県立隠岐島前高校は、少子化の影響を受け、10年間で、入学者数が激減し、学校自体の存続が、島の存続に直結することになった。「ピンチの中には、変革と飛躍へのチャンスがある」という信念で島前

3町村が連携し、高校改革の構想を作成した。全国からも生徒が集まる魅力的な高校づくりを推進している。
・「具体的な取り組み」
・「地域創造コース」「特別進学コース」の2コース制を開始
・学校と家庭の教育力を更に補強する公営塾「隠岐国学習センター」を創設、IT技術などを駆使し離島のハンデをなくすよう取り組んでいる。
・寮費の全額補助、食費の月8,000円補助など島外からの意欲的な生徒の確保への取り組み。



島前高校魅力化プロジェクト（海士町）

「研修を終えて」
小豆島よりもさらに条件の厳しい離島でありながら、次々とまちおこし施策を打ち出し、

それをうまく島外にアピールしていると感じた。
島前高校では、「特別進学コース」といった独自のカリキュラムを設定するなど、新しい高校のあり方についての一指針を学ぶことができた。

鳥取県境港市 「少子化対策について」

境港市は、鳥取県内4市の中で、*合計特殊出生率が最も低い状態が続いており、更に、児童虐待に関する相談件数は激増。少子化対策に加え、児童虐待対策は併せて市の大きな課題となっていた。

こうした現状を受け、市は子育て支援課を創設し、子育て環境の整備に力を注ぎ、少子化の流れや児童虐待に歯止めをかけるよう取り組んでいる。
「具体的な取り組み」
(1)保健サービスの充実
①公立幼稚園1園廃止
②幼・保育園長会毎月開催（公・私立合同）

(3)割高であった保育料の大幅値下げ
(2)親子・地域の絆の強化
ブックスタート事業（平成16年4月）
「絵本を通して、赤ちゃんが親の愛情に包まれる幸せな時間を持つ」と言う市民の要望を受け実施。

①妊娠期からの読み聞かせ事業（母子手帳交付時）：妊婦向け絵本を一冊プレゼント
②両親学級：絵本の読み聞かせを実施など
③ブックスタート（6カ月児健診時）：絵本が入ったバックを手渡す。
④ブックスタートプラス（1歳6カ月児健診時）：絵本を一冊手渡す。

こうした活動を積極的に取り入れたことにより、親同士の交流の場を演出し、子育て世代の孤立化や、育児困難感の払拭に効果が出ている。
(3)発達障害児の療育推進
発達障害児の早期発見・予防に向け、市を

主体に療育ネットワークの設立・実施に積極的に取り組んでいる。具体的には、母子検診の間診票に独自に行動面に関する設問を導入するなど、スクリーニング（洗い出し）を強化し発達障害児の早期発見に努めている。



少子化対策について（境港市）

「研修を終えて」
少子化・児童虐待対策は、全国的な課題として今後早急な対策が必要と思えるが、境港市の3事業に対する先駆的な取り組みは評価できる。特に、近年身近でも急増している発達障害児の療育推進に関しては、とりの子を見て見ぬふりをするのではなく、現状を十分理解して、行政・地域・住民が一体となつて取り組むことが急務と考える。



島の風情が色濃く残る堀越地区

住民の声

Vol.19



過疎化の加速で 将来に不安

壺井 泰義

(堀越自治会会長)

わが堀越地区は北に波静かな内海湾、南には白波寄せる外海、町内で珍しい相異なる風土の静寂な集落で自然豊かな愛する土地柄であります。私が自治会長を引き受け2年目ですが、まず町のデータを考察して大きな課題があることに気づきました。それは町内で高齢化率54.13%とまさか一番先行の地区です。(小豆

島町では35・30%) 将来、人口減少と少子超高齢化の歯止めはきかず、とすれば、今、堀越地区の安心・安全な暮らしの出来る過疎化諸懸案例えば高潮対策、通行車両の退避場、月1回の巡回診療、高齢者の足確保などをどう打開していくかです。そこで元気な高齢者の皆さんを中心に支えたり、支え合ったりして住民間の意思の疎通と交流を深め、地区本来のあり方を目指したいと考えます。また、同じ悩みを抱えているす岬3地区(古江・堀越・田浦)でのより一層の交流による連携で対処してまいりたいと考えています。

最後に、先述の通り限界集落である堀越地区の抱えている諸問題を解消することが、町の過疎化対策として堀越地区はその型見本であり関係機関と協調し、対応策を推進したいと考えます。

まちの力 誠信会

(剣道)



誠信会スポーツ少年団は、昭和48年5月に故菅悟先生が私設の剣道教室「時松 誠信会」を創設、以来37年余りの永きに渡って、先生の教えを継承している歴史ある少年団です。

現在、小学校1年生から6年生まで21名の団員が加入しており、誠信会OB指導者が中心となって、週2回の稽古のほか、月1回程度、技術の向上はもちろん、剣道を通じた交流を目的に、他の団体への出稽古も行なっています。

「誠は天の道なり 之を行うは人の道なり 人間を大切にする剣道を 心をこめて繰り返そう 茲に人あり泉あり」の会訓のもと、剣の道を通じて感謝の気持ちを養い、正しい礼儀作法を習得するとともに、お互いに切磋琢磨をしながら、日々稽古

に励んでいます。

子どもたちは「地域の宝」です。この宝を大切に育み、未来に向かってたくましく成長することを願うと同時に、次代を担う「まちの力」となるよう大いに期待したいものです。

「はばたけ！誠信会豆剣士！」



なお、剣道に興味のある方は、ぜひ一度星城小学校体育館へ気軽に足を運んでみてください。

【稽古日：毎週月・木曜日午後7時から】

編集後記

新年を迎えたが、明るい兆しは見えていない。そうした中、ある労働者は「年末賞与が思いの外多かった」と、笑顔一杯。今年は、様々な笑顔が見られる年にしたい。

さて、12月議会では、新たに議会活性化特別委員会の設置が議決された。議会は住民を代表して重要な案件を審議・決定し、公平・公正の立場に立って行政をチェックする機関で、十分に審議を尽くすのがその職責であり、どのような高度な質疑や討論が濃密に行われたかが重要である。地域社会の片隅にいる弱者や組織を持たない住民の声は聞き取りにくい。それらと行政の橋渡しをすべき議員は、住民の心情をつかんで物事を考えること等が必要である。このような議会改革が求められるのではないか。

本紙に対する
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL(0879)75-1100 FAX(0879)75-0108